

第2回坂井地区高校教育懇談会

協 議 資 料

【目 次】

- | | | | | |
|-----|------------------------|-------|---|---|
| I | 第1回坂井地区高校教育懇談会における主な意見 | …… | P | 1 |
| II | 高校再編整備による新しい高校の設置事例 | …………… | P | 2 |
| III | 坂井地区の県立高校再編整備の方向性について | ……… | P | 4 |

I 第1回坂井地区高校教育懇談会における主な意見

1 再編整備計画について

- 学力でなく、子どものやりたいことに基づいて進路を決めるような体制をとって欲しい。
- 入学から卒業まで、3年間の心の変遷を追いかけて、挫折する生徒を少なくして欲しい。
- 県立高校の再編計画を進めていく上で、私立高校の現状等もみるべきである。
- 再編計画においては、新しい学校を作る話ばかりではなく、もう少し厳しい現状を示していくべきである。
- 総合産業高校は、幅広い学力の生徒を受け入れる高校になるので、新しい教育の形を作ってもらいたい。
- いろんな所で勉学に励むことで、よい人間関係をたくさん築くことができるので、一概に福井市の高校へ生徒が流れることが問題とは言えない。
- 懸念材料や変革を必要とする理由が当てはまらない職業系の学科もある。普通科と職業系学科がともにあることで、互いに刺激し合い、良い相乗効果が出ている学校もある。
- 福井市内の県立高校の定数の見直し、削減も検討すべき。
- 少子化や時代の流れも非常に速く進んでおり、再編の必要性はある。

2 職業系専門学科について

- 技術者などの人材を育成する学科や高校を大事にして、残して欲しい。
- 基礎学習を2～3年やった後に、工業系の学習をしたいなら専門を2年ほど行うといった体制があってもよい。
- 企業には、あまり社員の基礎教育をする余裕がない。基本的な部分を公教育の中でやって欲しい。

3 坂井地区の県立高校について

- 3年間での農業専門教育は難しく、制度の見直しも含め専門高校を考え直して欲しい。
- 農業教育を大切にして、地域に根ざした学校づくりをしてほしい。
- 農業学科だから農業へ就職ということではなく、幅広く考えて欲しい。資格の取得に力を入れて、就職率を高め、企業の求める人材を輩出して欲しい。
- 同窓会等の組織力が減退するので、家政科を三国高校から離すことに反対する。
- 統合は時代の流れで仕方がないが、アクセス面を考慮し、春江工業高校をなくさないようにしてもらいたい。

Ⅱ 高校再編整備による新しい高校の設置事例

鳥取県立鳥取湖陵高等学校（鳥取県鳥取市）

1 沿革

- ・平成10年3月の高等学校教育改革基本計画に基づき、再編。
- ・鳥取西工業高校、鳥取農業高校、鳥取西高校家庭科を統合し、平成13年4月に開校。
- ・校地は、旧鳥取西工業高校（工業高校の設備を有効活用）。

2 学校規模

- ・1学年6学級規模

3 開設学科

(1) 農業学科

①食品システム科（1学級38人）

- ・生産流通コース: バイオテクノロジー、野菜・果物の栽培
- ・食品科学コース: みそ・醤油、乳酸飲料、パン等の製造、食品分析、流通

②緑地デザイン科（1学級38人）

- ・環境緑化コース: 造園、ガーデニングの設計・施工・管理
- ・装飾園芸コース: フラワーデザイン、花の栽培

(2) 工業学科

①電子機械科（1学級38人）

- ・機械技術コース: 機械の構造・原理、設計、制御法
- ・電子技術コース: 機械・電子電気技術、ロボットの制御、電気通信技術

(3) 家庭学科

①人間環境科（2学級38人）

- ・総合生活コース: 衣食住に関する知識、製作実習
- ・福祉・保育コース: 高齢者・障害者福祉、保育

(4) 情報学科（平成15年度開設）

①情報科学科（1学級39人）

- ・情報システムコース: コンピュータのハードウェア、ネットワークシステム
- ・コンピュータデザインコース: デザイン、アプリケーションの活用

4 特徴

- ・農業科には、コンピュータ制御温室6棟を設置
- ・実践的職業教育に力を入れている。インターンシップの4日間実施、社会人講師による講義開催など。
- ・2年次から、自学科、他学科、普通科の3つの選択科目群の中から、自分の進路希望や興味関心に応じた科目を選択可能。

1 沿革

- ・ 平成14年に富士宮農業高等学校を改組し、総合学科として新発足

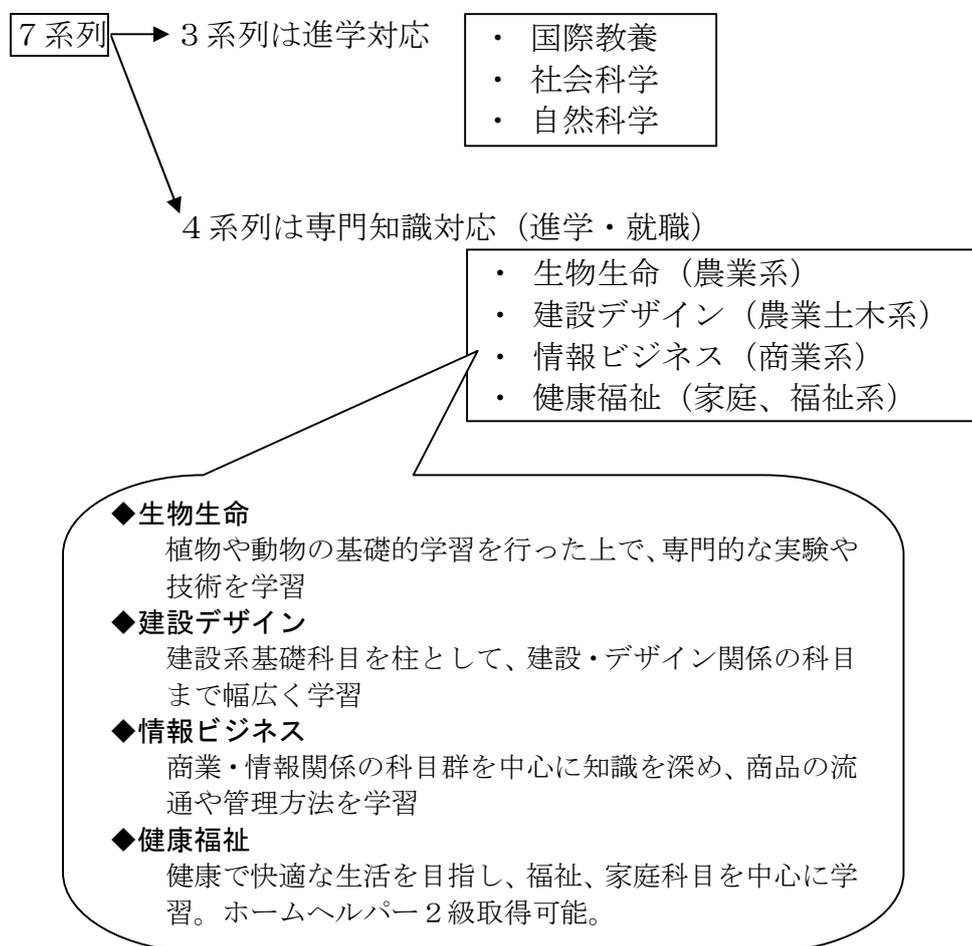
2 学校規模

- ・ 1学年6学級規模

3 開設学科

総合学科

- ・ 1年次は、基本的に、全員共通カリキュラムで学習
- ・ 2年次から以下の系列に分かれ、それぞれの進路目標に向けて学習



4 特徴

- ・ 1年次に様々な体験をさせるとともに、2年次以降の選択科目、一部体験学習も実施
- ・ きめ細かな進路指導を実施
- ・ 卒業時の進路への満足度が90%(3年生アンケート)、進路未決定者が極めて少ない

Ⅲ 坂井地区の県立高校再編整備の方向性について

1 職業系専門学科の再編整備の方向性

(1) 金津高校商業科（経理科、情報処理科）

- ・ 卒業生の6割以上が進学しており、進学先は多様だが、近年は専修学校等への進学率が比較的高くなっている。
- ・ 資格取得率も高く、難度の高い資格取得にも積極的に取り組んでいる。

【卒業者の進路状況】

〔※上段は人数(人)、下段は割合(%)〕

卒業年月	進学				就職	その他	合計
	大学	短大	専修等	小計			
H19.3	13	11	29	53	23	0	76
	17.1	14.5	38.1	69.7	30.3	0.0	100.0
H20.3	10	12	24	46	29	0	75
	13.3	16.0	32.0	61.3	38.7	0.0	100.0
H21.3	15	18	14	47	27	1	75
	20.0	24.0	18.7	62.7	36.0	1.3	100.0
3年間の平均	12.7	13.7	22.3	48.7	26.3	0.3	75.3
	16.9	18.2	29.6	64.7	34.9	0.4	100.0

- ・ 例年、志望者数が定員数を上回っており、入学者数はほぼ定員を満たしている。

年度		志望者数 ※	定員数	入学者数
H19	経理科	93	38	35
	情報処理科		38	38
H20	経理科	91	38	38
	情報処理科		38	38
H21	経理科	93	38	38
	情報処理科		38	37
H22	経理科	106	38	—
	情報処理科		38	—

※ 例年9月に実施する進路志望調査結果による

【再編整備の方向性(案)】

- ・ 職業系専門学科としての専門性の向上
- ・ 大学への進学希望に対応した教育体制整備

(2) 三国高校家政科

- ・ 卒業生の約6割が進学しており、進学先は短大・専修学校等が多い。
- ・ 進学・就職先と学科との関連性が高い。
- ・ 衣・食・福祉・保育等の生活に直結する多様な学習を行う。

【卒業者の進路状況】

〔※上段は人数(人)、下段は割合(%)〕

卒業年月	進学				就職	その他	合計
	大学	短大	専修等	小計			
H19.3	1	9	10	20	16	0	36
	2.8	25.0	27.8	55.6	44.4	0.0	100.0
H20.3	0	10	8	18	15	0	33
	0.0	30.3	24.2	54.5	45.5	0.0	100.0
H21.3	1	9	11	21	9	1	31
	3.2	29.0	35.5	67.7	29.1	3.2	100.0
3年間の平均	0.7	9.3	9.7	19.7	13.3	0.3	33.3
	2.1	27.9	29.1	59.1	39.9	1.0	100.0

- ・ 例年、女子を中心に志望者が多い（平成6年以降、志望者数が定員数を上回っている。）。

【志望者、定員、入学者数の推移(直近4年間)】

年度	志望者数 ※	定員数	入学者数
H19	42	38	38
H20	61	38	38
H21	44	38	38
H22	58	38	—

※ 例年9月に実施する進路志望調査結果による(志望者は全て女子)

【再編整備の方向性(案)】

- ・ 職業系専門学科としての専門性の向上
- ・ 多様な学習ニーズ、進路希望への対応

(3) 坂井農業高校

- ・ 卒業生の約6割が就職。農林漁業への就職者は、直近2年はなし。
- ・ 進学先は専修学校等が最も多い。
- ・ 農産物の販売などを通じた地域との交流、環境を重視した教育の実践（エコロジカル・アグリハイスクール宣言）など、特色ある教育活動を展開

【卒業者の進路状況】

〔※上段は人数(人)、下段は割合(%)〕

卒業年月	進学				就職	その他	合計
	大学	短大	専修等	小計			
H19.3	4	1	27	32	60	5	97
	4.1	1.0	27.8	32.9	61.9	5.2	100.0
H20.3	3	3	22	28	55	5	88
	3.4	3.4	25.0	31.8	62.5	5.7	100.0
H21.3	5	3	13	21	52	5	78
	6.4	3.8	16.7	26.9	66.7	6.4	100.0
3年間の平均	4	2.3	20.7	27	55.7	5	87.7
	4.6	2.6	23.6	30.8	63.5	5.7	100.0

- ・ 例年、志望者数が定員数を下回っているが、入学者数はほぼ定員を満たしている。

【志望者数と定員数の推移(直近3年間)】

年度	志望者数 ※	定員数	入学者数
H19	61	90	90
H20	52	93	92
H21	84	93	88
H22	54	93	—

※ 例年9月に実施する進路志望調査結果による

【再編整備の方向性(案)】

- ・ 学習内容と進路先とのミスマッチの解消
- ・ 生徒や社会の多様なニーズに対応した教育体制の整備

(4) 春江工業高校

- ・ 卒業生の約6割が就職しており、大学への進学率も高い。
- ・ 進学先、就職先とも、学科との関連性が高い。

【卒業生の進路状況】

[※上段は人数(人)、下段は割合(%)]

卒業年月	進学				就職	その他	合計
	大学	短大	専修等	小計			
H19.3	24	2	28	54	86	5	145
	16.5	1.4	19.3	37.2	59.3	3.5	100.0
H20.3	18	6	17	41	94	2	137
	13.1	4.4	12.4	29.9	68.6	1.5	100.0
H21.3	21	1	31	53	75	1	129
	16.3	0.8	24.0	41.1	58.1	0.8	100.0
3年間の平均	21	3	25.3	49.3	85	2.7	137
	15.3	2.2	18.5	36.0	62.0	2.0	100.0

- ・ 例年、志望者数が定員数を上回っており、入学者数はほぼ定員を満たしている。

【志望者数と定員数の推移(直近3年間)】

年度	志望者数 ※	定員数	入学者数
H19	158	128	126
H20	167	132	129
H21	147	132	132
H22	156	144	—

※ 例年9月に実施する進路志望調査結果による

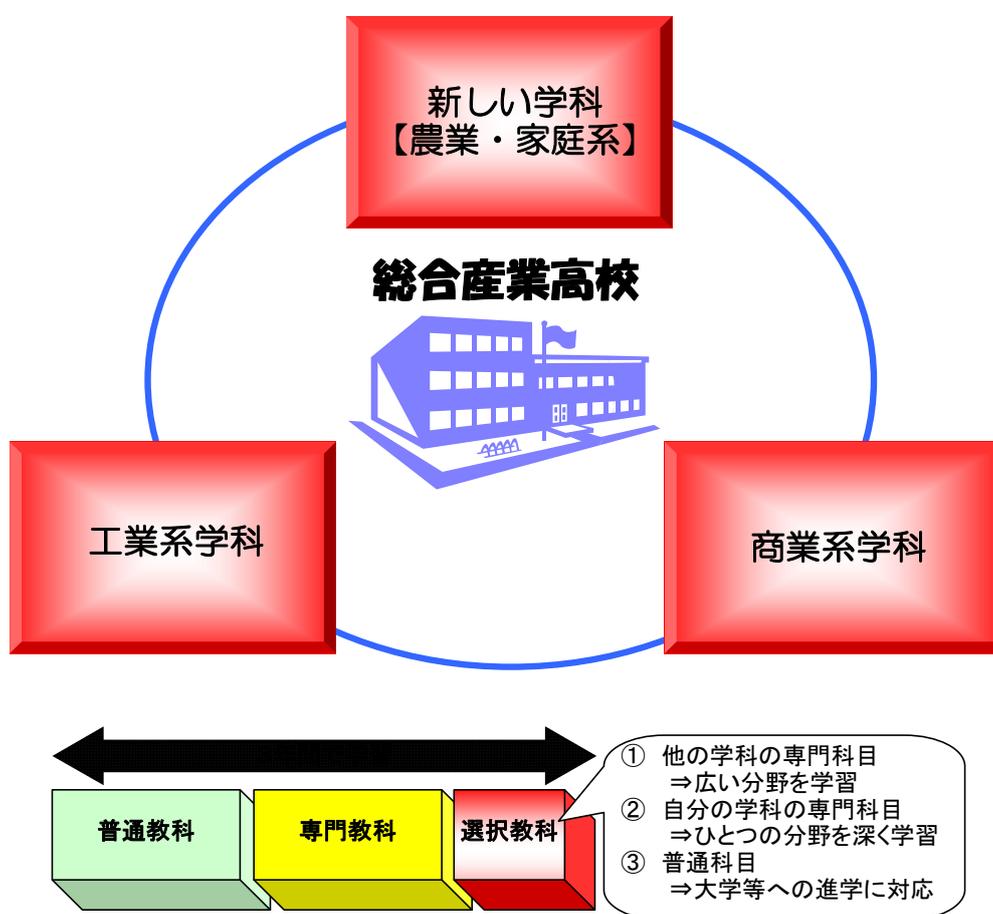
【再編整備の方向性(案)】

- ・ 職業系専門学科としての専門性の向上
- ・ 生徒や社会の多様なニーズに対応した教育体制の整備
大学への進学希望にも対応した教育体制を整備

2 坂井地区における総合産業高校の設置イメージ

- ・ 工業系学科、商業系学科、農業系と家庭系学科を基本とした新しい学科を設置。
- ・ 既存の職業系専門高校のいずれかを本校とする（春江工業高校または坂井農業高校）。また、本校の決定に当たっては、設置する学科、現在の施設・設備等の状況、生徒の通学等について総合的に検討する。

【総合産業高校のイメージ】



＜本校設置場所と課題(メリット・デメリット)＞

設置場所	メリット	デメリット
春江工業	<ul style="list-style-type: none"> ・街中にあり、交通の便がよい。(福井市から、JR・バスあり。) ・工業科の施設の有効利用を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・坂井農業に比べ、敷地面積が狭いため、学科の増加にどの程度対応できるか検討が必要。
坂井農業	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積が広いので、学科の増加にも対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業科の施設・設備の新設が必要。 ・JR駅からは近いが、春江工業高校と比較すると、交通の便がやや悪い。